

昭和13年 11月5日 福島縣東方沖地震及津浪地域踏査報告

鷺坂清信、小磯一雄

地震津浪は從來經驗から大規模の地震にのみ隨伴するものと考へられて居り今日でも其の考へに違ひはないと信するものであるが 11 月 5 日午後 5 時 44 分の福島縣東方沖の地震及び其の餘震は規模に於いて左程大なるものとは言へないが本震は勿論主なる餘震にまで津浪を伴つた。そこで鷺坂は福島及び茨城兩縣下の、伊藤氏は宮城及び岩手兩縣下の檢潮所の津浪記象の調査を目的に出張を命ぜられ、この際鷺坂は今回の本震に関する震度の概要を知るために被害の主な二三箇所を踏査した。此の報告中鹽屋崎附近は小名濱測候所小磯所長と共に踏査したものである。又實際津浪を目撃した人々の話にも注意した。以下それらの事を記す。

1. 福島 福島市では今回のものが最近での大地震であつて、昭和 8 年 3 月 3 日の三陸沖強震の時よりも、又本年 5 月 23 日の鹽屋崎沖地震よりも遙かに震度は強く壁に龜裂を生じた家屋多く福島測候所などは建物が古いためでもあるが龜裂が甚だしかつた。市内の商店では棚の上の洋酒壘其他瓶詰ものの轉落破損による被害も相當あつた。特に注意を引いたのは阿武隈川にかゝれる松齡橋の鑄鐵の街燈柱の同型のもの 6 本の中 4 本までも折れたことである(第 1 圖参照)、此の街燈柱は高さ 4.5 米、直徑 15 糎で厚さが平均約 1.3 糎の圓筒柱であり、上端より 2 米程の所に電線の引込のための孔があり其處からどれも折れてゐる。之等から見て福島市の震度は強震である。

2. 浪江 此處は今回の地震で最も被害の多い町であつた。浪江署の調査によれば全潰 3 戸、半潰 22 戸で壁に龜裂等の破損は殆んど全般に亘つて生じた。とりわけ石造建並びに土藏造りのものゝ被害が甚だしかつた。寫眞第 3 圖及び第 4 圖はそれらの破損状態を示すものである。第 3 圖は常陽銀行浪江支店であつて土藏造りの堅牢な建築物であるが屋根瓦は剝落し又西側の壁が甚だしく剝落してゐる。第 2 圖は佐藤甫氏の肥料倉庫であつて南側が崩潰して居る

が一般に石造建のものが最も多く破損した。又出羽神社内の石燈籠 9 個の中 8 個迄轉倒し西側に倒れて居るものが割合に多いが大體から見て不規則である。残りの 1 個は反時計様に廻轉してゐた。此處の震度は強震としても強い方である。

3. 請戸 請戸川に沿ふて津浪が襲來したのを目撃したといふ事を聞いたので之を質問するため河口に近い請戸橋の附近の家を數戸尋ねた。竹村とらよ、石田よしの、大平フヨ子、木幡とめ等の方々の話によれば 7 日の午前 7 時半頃車からバラスを落す時のやうな音或は夕立が激しく降つて來る時のやうな音がした時であつた。外で津浪だと叫ぶ聲がしたので請戸橋の上へ飛び出して見ると川幅いつぱいに二三尺の高さに押し寄せて來る津浪を見た。それはかなりの速さで例へば自轉車の走るときの速さ位に思はれた。又水かさは後から後からと幾段にか増して行くやう見えた。そして請戸橋から一軒程の上の荒井部落まで認められたとの事である。又請戸橋も河口から約一軒である。5 日や 6 日の地震後には津浪はなかつたとの事であるが夜の事で氣づかなかつたものと思はれる。第 5 圖は請戸橋の橋桁の端の破損を示したものである。

4. 鹽屋崎 鹽屋崎燈臺の在る山の周圍には小崖崩れ所々に見受けられ、第 6 圖は燈臺の官舎より燈臺に至る通路が崖崩れのため破損し並びに塀をも龜裂傾斜せるを示したものである。又第 7 圖は燈臺の龜裂の箇所を示したものである。燈臺の建物は高さ 30 米の圓筒で側壁の厚さ約 1 米で煉瓦造りである。底部の直徑は約 7 米、頂上の直徑は約 5 米である。之が下方から約 8 米の所で上部が下部に對して約 12 度南東へ重錘を被ふ圓筒もろとも移動してゐる。水銀は殆んど全部溢出し、プリズムも大部分破損する等被害甚だしい。強震としては極強い方であつて今回の地震では此の鹽屋崎附近と前述の浪江附近が最も震度が大であつた。

5. 小名濱 小名濱の町内では壁に龜裂などが幾分見受けられる程度で上述の鹽屋崎や次に述べる江名町等に比較すれば家屋の被害はずつと輕少である。第 8 圖は小名濱港内魚市場前の鋪裝道路の龜裂を示すもので龜裂線は岸壁に並行して東西に走る。小名濱町内では津浪の襲來を恐れて近くの高所に避難せるものが多數あつたが實際に津浪の襲來を認められたものはなかつたやうである。

6. 江名 小名濱と鹽屋崎の間では小山崩れ所々に見受けられた。江名町大字折戸では裏山が崩れその土が屋内になだれ込んだのが數戸あつた。第9圖は同部落の吉田福壽氏の住宅で裏山が二坪程崩れそれがなだれ込んだため家が前方に30度程傾斜した。次に江名町築港に繫留中の起重機(25噸釣下げ)が9日午後9時半頃岸壁に探つて置いた艦綱が切斷されて沖に流れ出たのを魚市場で賣買して居つた商人が見て津浪と即斷して山へ逃げたとの事である。又其の際津浪の音響を聞いたものもあるとの事である。江名町字中ノ作築港の沖合は最大干潮時のみ岩磐が現れるが平素では現はれないのに5日夜岩磐を見て奇怪と思つたものがあつた。此の5日も6日も干潮時に全振幅1米内外の小津浪が檢潮儀に現はれて居る所から見て上述の艦綱の切れた事や岩磐の露出した事柄は了解される。

7. 中村 福島縣相馬郡中村町松川浦に於いては初め一尺程減水し、次に波狀でなくモリモリとふくれ上り此處の築堤を越すこと約3尺位となつたとの事である。この津浪は地震のあつた翌朝8時前との事で、地震は感ぜずとの事である。地震のあつた翌朝とあるが其の地震は5日の夕方の本震かそれとも6日夕方の餘震の大きいものがあつたがそれを指すのか判明しない。7日の朝ならば請戸川の津浪と一致し、それに相當する地震もあるが6日の朝とすれば了解にくい。日時のごとは多少疑はしいが佐藤權氏の詳細な報告から見て地震津浪のあつた事は眞實と首肯される。